

平成29年度（横須賀大津高等学校）不祥事ゼロプログラム実施状況

○ 項目・目標別実施結果

項目	目標	実施結果と目標の達成状況
(1) 法令遵守意識の向上 【必須事項】	『神奈川県職員行動指針』の周知・徹底を図り、県民の信頼に応え得る高い倫理観の保持に努め、公務外非行を未然に防止するとともに、県民対応の基本を再確認する。	○『神奈川県職員行動指針』を4月20日の事故防止会議で教職員に改めて配付、4つのカテゴリーを読み上げて確認し、不祥事防止の意識を高揚した。 ○職員室の各学年外線電話機の近くに、「適正な電話対応について」（平成24年8月24日）を参照した電話対応の基本的なマナーを分かりやすく貼付した。 <b>達成状況</b> 公務外非行や電話対応トラブルは見られなかったため、「目標達成」とする。
(2) わいせつ・セクハラ行為の防止 【必須事項】	人権感覚の向上に努め、わいせつ・セクハラ行為を未然に防止する。	○わいせつ・セクハラ行為に係る内容を、7回の事故防止会議で取り上げ、未然防止を図った。 <b>達成状況</b> わいせつ・セクハラ事案は見られなかったため、「目標達成」とする。
(3) 体罰、不適切な指導の防止 【必須事項】	人権意識の向上に努め、体罰・不適切指導を未然に防止する。	○行動計画に位置付けた「アンガーマネジメント」に関する研修機会が不十分だった点が課題である。 <b>達成状況</b> 複数の職員による丁寧で理性的な指導を推進し、体罰等の不適切な指導は見られなかったため、「目標達成」とする。
(4) 入学者選抜に係る事故防止 【必須事項】	入学者選抜に係る事故を未然に防止する。	○12月14日に職員啓発・点検資料80（入学者選抜）を活用した事故防止会議を、1月16日に面接検査に係る研修会を実施し、適切に入学者選抜業務を進めることができた。 <b>達成状況</b> 選抜から合格発表まで、入学者選抜に係る事故はなかったため「目標達成」とする。
(5) 成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止 【必須事項】	定期テスト、成績処理に係る事故防止及び進路関係書類に係る事故防止の徹底を図る。	○前期中間テスト前の5月16日に定期テストに係る事故防止会議を開催したほか、テスト毎に答案の誤廃棄等に係る注意喚起を行った。 ○8月28日に成績処理に係る事故防止会議、10月3日に全教員による調査書点検等を実施した。 <b>達成状況</b> 成績処理及び進学等の出願に係る事故はなかったため「目標達成」とする。
(6) 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	神奈川県個人情報保護条例、その他個人情報保護に関するガイドラインに則り情報の適切な管理に努める。	○4月20日と1月11日に生徒の個人情報収集に係る事故防止会議を、10月12日に職員啓発・点検資料78（個人情報の取扱い・情報セキュリティ）を活用した事故防止会議を実施した。 ○12月20日に総合教育センター所員による不祥事防止研修会を開催し、意識を高めた。 <b>達成状況</b> 個人情報等の管理、情報セキュリティに係る事故はなかったため「目標達成」とする。
(7) 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故、酒酔い・酒気帯び運転の未然防止及び交通法規遵守を徹底する。	○12月20日に職員啓発・点検資料81（交通事故防止・交通法規の遵守）を活用した事故防止会議を実施した。 <b>達成状況</b> 職員による交通事故・交通違反はなかったため「目標達成」とする。

(8)業務執行体制の確保	適切な業務の執行・進行管理に努める。	○2月8日に職員啓発・点検資料82（円滑な業務執行のための情報共有）を活用した事故防止会議を実施した。行動計画に位置付けた、経験の浅い教員に対する研修機会が不十分だった点が課題である。 <b>達成状況</b> 適切な報告・連絡・相談、情報の共有化と相互チェック体制の確立に努めたので「目標達成」とする。
(9)会計事務等の適正執行	会計事務等の適正な執行に努める。	○4月20日に、職員啓発・点検資料73（諸会費等の振替誤りの防止と私費会計のポイント）を活用した事故防止会議を実施し、意識を高揚した。 <b>達成状況</b> 監査が適切に行われ、学校徴収金運営協議会における意見聴取を踏まえて私費会計処理を行い、事故はなかったので「目標達成」とする。

○ 平成29年度不祥事ゼロプログラムの達成状況及び平成30年度に取り組むべき課題

(学校長意見)

学校が生徒・保護者や県民との信頼関係を築き、安心して教育を任される存在であり続けるために、不祥事防止の取組みは欠くべからざるものである。

残念ながら県下で事故・不祥事が根絶に至らない中、本校は、より一層の意識高揚と職員自身による主体的な取組みを前提に不祥事防止研修や事故防止会議を開催し、不祥事ゼロプログラムに設定した9項目について1年間を通して全職員で予定通り取り組むことができた。

また、事故防止会議は、徒に長い時間をかけず、職員会議の冒頭や朝の職員打合せを活用し、昨年度とほぼ同様の22回実施した。毎回管理職が注意喚起するのではなく、総括教諭（グループリーダー）・教諭（サブリーダー）による具体的な指示や呼びかけが、ミスを未然に防ぐ危機管理意識を共有することになり、安定した教育活動を支えることにつながると実感している。

なお、本プログラムについては、規定に従って年度途中の中間検証を行い、実施状況を確認した。

次年度も、全職員が事故・不祥事の根絶に向けた意識を向上させ、主体的に取り組むことができるゼロプログラムを構築し実践する。

課題となるのは経験の浅い職員に対する計画的・組織的な研修のあり方である。ベテランが培った貴重な教育力をスムーズに継承しつつ、今日的な教育課題に向き合い、解決していくことができるよう、職員が一体感をもって考え、教育委員会不祥事防止啓発・点検資料等も効果的に活用し、チームで人材育成に取り組むたいと考えるところである。